自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401780		
法人名	株式会社 Human-system Japan		
事業所名	グループホーム 自由の大地		
所在地	札幌市手稲区稲穂3条2丁目11-7		
自己評価作成日	平成27年10月26日	評価結果市町村受理日	平成27年12月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0170401780-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 27 年 11 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

手稲の高台に位置し、遠くは石狩湾や暑寒別岳が望め、景色(夜景)が素晴らしく環境豊かな施設です。そんな環境の中で介護保険制度の理念のもとに、地域に溶け込んだ穏やかで楽しい生活を過ごしていただけるように職員一丸となって努力しています。また、ヘルパーの実習生を受け入れている施設でもあり、認知症に対しての対応の仕方を実習生に対してしっかりと指導出来るように社内研修に力を入れております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成18年に設立された当ホームは、暮らしやすい住空間への工夫が随所に見られます。両手すりのある広い廊下は歩行訓練に活用され、浴室に直接行けるトイレには利用者のプライドを損ねない配慮がみられます。また、居間の窓からの眺望は開放感に溢れ、利用者は居ながらにして雄大な景色を楽しみ、四季の変化を体感することができます。職員は各種委員会に所属し、積極的にホーム運営に参加しています。外出行事やホーム内行事により、利用者に変化や楽しみのある暮らしを提供するとともに、利用者一人ひとりが力を発揮できる場面作りを工夫し、利用者の意欲や心身機能の維持・向上に繋げています。また、ホーム内で実施する救急救命講習に地域住民の参加を呼びかけたり、実践者研修の研修生を受け入れるなど、地域貢献を果たしています。利用者個々のライフスタイルやペースを尊重しつつ、「地域に溶け込んだ自由で尊厳のある楽しい生活」を支援するホームです。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新しい理念を事務所に掲示し、実践するよう日々努力している。	「地域・尊厳・自由」をキーワードとする理念を職員とともに作成しています。新人研修で周知を図るとともに、事務所に掲示し、日々の介護実践に繋げるよう努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や避難訓練、ホームの行事への参加を町内会へ呼びかけたり町内会主催の行事に参加させていただいたりしている。	町内会に加入し、町内清掃や行事(バーベキュー)に利用者とともに参加しています。セージュ新琴似の夏祭りに毎年参加し、地域施設との交流を図っています。ホームで実施するAED講習会には地域住民の参加を呼びかけ、地域貢献を果たしています。	以前に比べて、町内会や近隣小学校との交流がやや希薄になっています。地域の一員として事業所と地域が互いに支え合う関係を構築できるような取り組みに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症勉強会や救急救命等貢献できる活動を地域住民、町内会へ発信しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の開催とし、より多くの報告、話し合いがなされ、サービスを向上させるべく努めている。	会議は利用者、家族、地域住民、民生委員、地域包括支援センター職員を構成員として、年6回開催しています。行事や運営状況、事故に関する報告とともに、成年後見制度の学習会や今後の議題について意見交換を行っています。	家族や地域住民の参加頻度がやや減少しています。町内会役員や民生委員、家族との連携をさらに強化し、多様な構成員による会議開催への取り組みを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や区が開催する「管理者会議」・「ふれあいフェスティバル」等に必ずさんかし、いつでも相談協力できる体制を築いている。	市や区の管理者会議に参加して情報交換しています。介護保険課や生活保護課担当者との連携を密にして、協力関係を築いています。また、区の「ふれあいフェスティバル」に参加し、一般の施設見学を受け入れるなど、地域の社会資源としての役割を果たしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてカンファレンスを開き、冊子などを用いて理解を深めている。玄関の施錠は夜間帯のみ防犯の為にしている。	管理者は行動抑制に繋がる言葉掛けへの注意や指導を行い、職員とともに身体拘束のないケアの実践に努めています。玄関は夜間のみ施錠しています。以前は身体拘束防止委員会を開き、身体拘束に関する知識の周知に努めていましたが、現在は特設の研修を実施するには至っていません。	身体拘束は行われていませんが、「禁止の対象となる具体的な行為」への正しい理解が十分とはいえません。外部研修の受講や内部研修の実施などで、身体拘束防止に関する理解の徹底を図る取り組みに期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止、言葉の虐待防止について理解し、注意、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などにより学ぶ機会を持つ職員もいるが、代表が全体会議の中で勉強会を開き学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去の際は管理者が丁寧に説明し、理解と同意を得ている。また、退去の契約解除の際も同様に説明し、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や苦情箱を用いて利用者や家族の意見をくみ取れるように努めている。	家族の訪問時には要望や不安を聴き取るように努め、要望への対処や不安の軽減にその都度努めています。隔月ごとのホーム便りで、利用者の暮らしぶりや今後の行事、運営推進会議予定、新規職員の紹介を行い、ホームの様子を郵送で伝えています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	合同会議、フロア会議の中で活発な意見交換がなされている。	職員はレクリエーション、食材、衛生備品、広報、園芸等の委員会、運営推進会議に重複して参加し、積極的に運営に携わっています。管理者は、年3回の全体会議や日々のミニカンファレンス、サービス担当者会議でも職員が意見を述べる機会を設け、運営に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や研修参加を積極的にできるよう支援している。休みも希望通りとれている。処遇改善交付金を利用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修を用い職員の知識・技術向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	定期的に管理者会議やグループホーム協議会に出席している。また、ほかグループホームとの職員交流会なども行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、今まで利用されていた他事業所、医療機関、家族との連携、安心できる関係づくりに努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の話し合いを大切にし、要望を傾聴し、面会時にも意向を伺い、信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に十分な話し合い、本人に合ったサービスを提供できるよう支援している。諸手続に関しても出来る限りのサービスを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として、敬意と尊敬の意を持ち、出来ることは積極的に行っていただき、出来ないことは支援し支え合う生活を送っていただいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	レクリエーション、行事に参加を呼び掛け楽しまれたり、面会時、その他に本人の状況、生活をお伝えし、共に支援体制を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話、面会、外出等、ご本人の好まれている事を把握するよう努め、支援している。	家族との墓参りや馴染みのスーパーへの外出、外食などの機会を大切にし、できるだけこれまでの習慣が途切れないように支援しています。友人の訪問時や、電話での会話も、利用者や相手が寛いできるよう配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、会話やレクリエーションを行う事で、利用者間の円満な関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退所された方のお見舞いや訃報の際は葬儀に参列している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からの要望を聴き、本人の希望が叶えられるよう努めている。	職員は、日々の生活の中で、自己選択や自己決定の場面を設け、利用者一人ひとりの希望や要望に沿う支援に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族・親戚からの情報を得て環境の変化にも対応できるように基本情報を回覧している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を把握し、したい事、できる事をしていただくよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、医療機関から要望、意見を聴き、職員間で話し合い計画作成している。状態の変化が見られた時はカンファレンスを設け作成している。	介護計画は家族や医療従事者の意見を取り入れ、サービス担当者会議を経て作成され、3ヵ月毎に見直しを行っています。介護記録は計画内容に沿って記入する形式で、日々のモニタリングが実施されており、状況変化に応じた計画の見直しが速やかにできる様式になっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画、実行、ケアする上での問題点等、その都度話し合っている。記録の書き方の勉強会も行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況により、病院の送迎、買い物同行・代行を行い支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの音楽会・消防等の地域資源と協力している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医師による月2回の往診と24時間連絡可能な体制を取っている。また、歯科往診と歯科衛生士による口腔ケアも毎週のように行っている。	利用者全員が新たな協力医療機関による月2回の往診(内科)を受けていますが、希望に応じてかかりつけ医や他科への受診に職員が同行しています。看護師(週1回)による健康チェック表や医師の居宅療養管理指導書、受診記録で情報を共有しています。訪問歯科を利用することも可能です。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を毎週受けており、日常の気づき、変化について気軽に相談出来ている。緊急時の対応もすばやくできる体制を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連絡を密にして、書類を整え早めに対応できるよう心がけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	ご家族にホームでの対応出来る最大のケアについて説明している。また、かかりつけ医とも密に連携を図っている。	契約時に、利用者・家族に重度化した場合や看取りに関する指針を説明し、同意を得ています。状況の変化に応じて、段階的に医師や家族、職員と相談して方針を共有しています。	10月に協力医が変更した事で、看取りに関する医療機関との打ち合わせや段階的な対応マニュアルの作成が中途になっており、ホーム側も作成に鋭意取り組み中とのことです。一日も早い整備と、職員研修の充実に期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防の協力を得て救急救命の研修を行っている。また、緊急時には、わかりやすい緊急時マニュアルを作成し、見やすい場所に掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については消防との協力を得て、避難訓練を行っている。その時には地域の方に声かけし参加していただいている。今後は震災時の訓練も行いたいと考えている。	年2回、消防署立ち会いのもと、昼夜を想定した火災避難訓練を実施しています。訓練時には地域住民の見学もあります。水や食料、防寒用品の備蓄をしています。毎年AEDを含めた救急救命講習をホーム内で実施しています。	避難・誘導マニュアルの作成、震災時の備えや訓練の実施、地域との連携強化(役割分担の明確化)等、防災への意識向上と災害対策のさらなる充実を期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	フロア会議等で尊厳の保持について話し合い、利用者に合わせた対応をしている。	新規職員には接遇研修で理念に掲げる尊厳の尊重について周知徹底を図っています。ベテラン職員も利用者の誇りを損ねない声掛けや呼びかけをするよう常に配慮しています。個人記録はスタッフルームで保管し、個人情報使用同意書を交わすなど、個人情報を適切に管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定しやすいよう声かけし、行えるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	共同生活においては一緒に行っていたが、本人の意思を尊重して自分のペースで生活していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1度、理・美容師により散髪、顔剃りを行っている。化粧品も同行して買いに行き、希望に添えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じ食卓につき、談話しながら同じ食事を食べている。配膳や片づけも出来る方には参加していただいている。	利用者の好みを反映した献立を食材担当職員が作成しています。利用者は個々の力量に応じて配膳や片づけを行っています。ホームの菜園で収穫した野菜や、ともに作成する鯨漬けを賞味しています。行事や誕生会、喫茶の日には寿司やケーキ、ノンアルコールビールなどで晴れの日を演出しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材を担当している職員が栄養バランスを考えメニューを決めている。食事量、水分量はトータルを記載し共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけ、見守りにて口腔ケアを実施している。歯科衛生士から個別の指導をしていただき実行している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にてパターンを把握しトイレ誘導をしている。排泄のサインを注意深く見守り誘導を行い汚染しないようにしている。	必要に応じて排泄チェック表で排泄パターンを把握し、声掛けや時間誘導を行ってトイレでの排泄を支援しています。自立している方でも移動に支援が必要な場合にはさりげなく介助しています。衛生用品は個々の居室で保管し、プライバシーを損ねない配慮をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や乳性品の摂取に努めている。体操、廊下の歩行などの運動を働きかけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	時間帯は職員の配置により、昼間に限られる。順番に入らせていただいているか、希望に添えるように努めている。	週2回を目途に、一人ずつゆっくり入浴できるように支援しています。夏場は一日2回のシャワー浴の希望にも対応しています。拒む場合には、無理強いせず、タイミングをずらしたり介助の職員を替えるなどして気分良く入浴できるよう工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促進し、生活のリズムを整えるように努めている。夜間は室温調整や照明調整を行い良眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬品説明書をファイルにし、職員が内容を把握できるようにしている。内服確認や全職員がチェックできるシステムも確立している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望される事、出来る事を把握し、お手伝いやゲーム等、喜ばれる事が多くなるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、祭りへの参加等、季節や希望に応じて外出を支援している。歩行困難な方も、車椅子、介護車両にて支援している。	季節毎の外出行事や他施設の夏祭りへの参加に加えて、天候や希望に応じて散歩や買い物に少人数単位で出かけています。家族と墓参りに出かける利用者もいます。天気の良い時期には庭先で軽食を楽しんだり、菜園の手入れをするなど、できるだけ戸外で過ごせるよう支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はお預かりしている場合が多いが、買い物時はお渡しして支払が出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の許可の取れている所には自由に電話を掛けている。また、毎年年賀状も書いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングはゆったりとくつろげるよう配慮している。壁などは季節感のある花や飾りで快適に過ごせるようにしている。	リビング・ダイニングの開放感ある大きな窓からは、石狩湾や暑寒別岳を臨める他、夜景や花火、四季折々の景色を楽しめます。広々とした廊下は両側に手すりを設置し、歩行訓練に活用しています。実のなった柿の枝や紅葉の装飾が飾られた季節感のあるリビングで、利用者はゆったり過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほぼ全ての利用者が共有リビングで自分の居場所を持っている。廊下の椅子にて歩行の運動、休憩所として使っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで使っていた馴染みの家具等を置き、居心地良く過ごしていただいている。	居室には使い慣れた家具や生活用品が自由に持ち込まれています。作り付けのクローゼットが設置されており、すっきり整理された中、家族の写真や好みの本が並べられ、それぞれが安心して過ごせる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを用い、安全な立ち上がり、移動、歩行ができるよう支援する。		